



## 前ページ「フライデー」紙面の転記（抜粋）

### 「ハイジャック」銀座で、またまた犠牲者が クウェート機「112人」を襲った「狂信者」の正体 バンコク離陸3時間後の「危険空域」で発生した「乗っ取り」

- 85年11月23日 エジプト航空（事件現場・マルタ）死者60人
- 86年5日パンナム（カラチ）死者21人、負傷者100人以上
- 86年12月25日 イラク航空（サウジアラビア）死者21人、負傷者100人以上
- 87年7月24日エアアフリカ（ジュネーブ）死者1人、負傷者30人

わずかここ2～3年の間に激動する中東情勢に絡んで「過激派」が起こしたハイジャック事件と犠牲者の数である。よくもこんなに、次から次へと同様な犯罪が繰り返されてきたものと呆れてしまう。

犯人はパレスチニア人であったりイスラム教徒過激派だったりするが、発生した地域や、狙われた航空会社がいずれも中東に関係するという共通項がある。

いわば、中東は「ハイジャック銀座」とでも言われる危険地域となっているのだ。

4月5日に起きた航空機乗っ取り事件は、まさにこの典型だ。

タイのバンコク空港を飛び立ったクウェート航空422便は、離陸3時間後ペルシャ湾上空で8人の親イラン派のイスラム教徒過激派に乗っ取られた。

乗客乗員あわせ112名を乗せたジャンボ機はイランのマシャッド空港へ緊急着陸した。

乗客の中には、**緒続真人さん**（41）やクウェートのジャビル首長に近い王族3人が含まれていた。

ここで犯人たちは、クウェート政府に爆弾犯17人（注）の釈放を要求。

（注）83年11月クウェートで米・仏大使館などを狙った連続爆弾テロ事件の犯人で、うち3人は終身刑）

犯人たちはイランで緒続さんを含む56人を解放したあと（前のページ右上側）、8日、イラン・マシャッド空港を飛び立ちベイルート上空にむかった。

ところがレバノン政府は対空砲火まで持ちだして着陸を拒否、空港を閉鎖してしまった。

そこでジャンボ機はキプロスに着陸したが、クウェート政府が態度を変えないばかりか、キプロス政府も「休日で燃料の余分がない」と燃料の補給を拒んだ。

ついに犯人は9日に一人、11日にまた一人とクウェート人乗客を殺害し、遺体を機外に投げ捨てたのである（前ページ左側）

事件は13日、PLOの仲介で同機がアルジェリアに着陸、「解決」に向かった。

以上がフライデー誌に記載の内容（抜粋）となるが、当時、他のソースから得られた情報にて次のとおり補足する。

- ① 犯人らはクウェート王族3名が、この飛行機に乗ることを事前に察知し、乗っ取りを入念に計画
- ② 武器（拳銃、手榴弾）は機内食ケータリング会社を巻き込んで持ち込む
- ③ キプロスで殺害されたクウェート人乗客は、消防署員等の公務員
- ④ アルジェリアでは犯人らに、クウェート政府より身代金が支払われ、王族を含むクウェート人乗客全員が解放された。尚、犯人の目的であった仲間の釈放に関する情報はない。